



2014・4・2

第 182 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

地域と結びついた活動で九条の会の真価発揮へ

地域・分野の「会」が交流

「九条の会」事務局主催の「地域・分野の九条の会交流会」が3月31日開かれ、50人余が出席し、活発な意見交換と交流をおこないました。

会議では冒頭、小森陽一事務局長が報告し、4月以後に予定されている安保法制懇の報告書をうけて集団的自衛権をめぐる安倍内閣が政府の憲法解釈変更する動きを本格化させようとしていることを指摘、これを許さぬ世論を高めつつ6月10日の「九条の会結成10周年講演会」を成功させようと訴え、その準備状況を報告しました（別項）。

会議ではミニ学習会のコーナーを設け、小澤隆一事務局員が安保法制懇における集団的自衛権「合憲化」の論理について解説しました。

地域・分野の九条の会の交流では、区内の9つの草の根九条の会が協力しあって2ヵ月に1回の例会と街頭宣伝をしているが、声をかければ話し合いに応じる人が増えている（横浜・旭区九条の会）と安倍内閣の

危険性について人びとの反応が変わりはじめていることや、空を飛ぶ米軍機が最近高度を下げて飛ぶようになって騒音が激しくなっている問題を取りあげ、憲法の問題として宣伝したところ、チラシをもっと欲しい、何かできることはないか等の声が寄せられるようになった（成城・祖師谷九条の会）など、地域の問題と結びつけた活動の重要性を強調する発言があいつぎました。また、集団的自衛権についてはまだまだ理解が広がっているとはいえないとの指摘や、近隣地域の九条の会相互の連絡・交流の重要性を指摘する意見も出されました。

6・10 講演会に阪田雅裕氏

「結成10周年記念九条の会講演会」についてはこれまで、大江健三郎、奥平康弘、澤地久枝の呼びかけ人3氏の講演のほか、ゲスト・スピーカーとして元内閣法制局長官の阪田雅裕氏の参加が決まっており、さらに追加をめざし交渉中です。

なお、開催日時・会場はつぎのとおり。

◇とき 6月10日（火）午後6時～

◇ところ 東京・渋谷公会堂

(東京都渋谷区宇田川町1-1)

詳細は追って発表します。

集団的自衛権行使容認反対「九条の会」アピール賛同者の声・中

昨年10月7日に「九条の会」が発表した「集団的自衛権行使による『戦争する国』づくりに反対する国民の声を」に賛同を表明された方々から寄せられたメッセージの続報です。

富山和子 (評論家・立正大学名誉教授)

まさにナチの手口。ずるずるといつか来た道に引き戻されそうで恐ろしい。戦後最大の民主主義の危機です。何としても「人殺しはいや」。この一点で力を合わせましょう。

暉峻康瑞 (浄土真宗僧侶)

わからん者がわからん事を国民に云うからますます狂ってくる。国家(権力)とは、トイレのフタ也、くさいものに…。世(体制)に従へば身苦し。斗うのみ也。

谷口稜曄 (長崎原爆被災者協議会)

平和を守って68年。憲法を改正するという事は絶対反対。

田中孝彦 (教育学者)

今、子ども・若者たちと共に、憲法を読み続けることを教育と教育研究の分野から進めていきたいと考えています。

滝沢口口 (俳優)

戦争は、するべきではありません。心を尽くして、言葉をつくして、理解しあう。それが、品格ある人間同士だと思います。

高山英男 (児童文化研究家)

戦時下、中学生のとき、勤労動員で尼崎の軍需工場で働き、神戸の空襲で2人の親友を失った世代として、永遠に戦争をしない、原発や武器を輸出しない美しい日本を次世代に手渡したい—私の祈りです。

高橋長英 (俳優)

何とか、この悪い流れにブレーキをかけられないものか。この地球が、人間が、病まない様にと…歯噛みすると思います。

内藤新吾 (日本福音ルーテル稔教会牧師)

アメリカに頼まれてと、国内の武器産業で儲けたい財閥たちにかつがれて、安倍首相は平和を踏みにじろうとしている。許されない。

長谷良雄 (真宗大谷派利覚寺住職)

戦死していくものは誰だ。今、戦没者追悼会は、遺族も参りません。50年、60年たって忘れていく。又その繰り返しをするのですか。無惨だ。

なかにし礼

もっと声を大きく!

中村博 (子どもと民話研究会)

平和憲法とともに教師になりました。当時の教え子(小学一年生)、父親のいない子

ども約半数。「お父さんはいつ帰るの?…」、それが要求でした。

野崎昭弘 (数学者)

最近、「平気で下手なウソをつく」のが平気な政治家がふえているようで、恐ろしいことだと思っています。

林京子 (著述業)

日本の国も、日本国憲法 (平和憲法) も、「私物」ではありません。私たち国民、日本人一人一人の問題です。

平山榮子 (天理教平和の会)

正直、こんなに簡単に悪法が次々通る国とは思いませんでした。1947年、憲法が施行された年に生まれた私は、「九条」を守る責務があると感じています。微力ながら今後も運動に参加していきたいと願っています。

藤原克己 (東京大学文学部教授)

私は集団的自衛権そのものに頭から反対、全否定ではありません。ただ、特定秘密保護法案もそうですが、乱用に対する歯ドメをどうするかといった議論を尽くさずに、閣議決定だけで大きな方向転換を図ろうとしている現政権のやり方には断固反対を言いたいと思います。

古沢宣慶 (日蓮宗浄鏡寺住職)

小異を残して大同につくという観点から「賛同」します。何が「小異」かという、私は必ず9条の基本理念を文章に入れるべきだと考えるからです。今、長沼40年にあたっての一文を書いているところですが、

9条は国家自衛権そのものの自明さも拒んでいるものだということを明確にすべきだと、実感しております。

古田足日 (児童文学者)

戦前生まれの僕は軍国主義体制下の文化・教育の中で軍国主義少年として育ったつらい思いをした。ひまごたちにはこういうつらさを味あわせたくない。豊かな子ども時代をつくりたい。

堀文子 (日本画家)

平和を装いながら特定秘密保護法を通過させ、平和を望む国民の声を抹殺する手段に出た安倍政権を許さない。今こそ、全国民が一致団結し「戦争する国」を目ざす自民党の暴走をくいとめる危急存亡の時だと思っている。

牧野忠康 (日本福祉大学名誉教授)

「戦争愛国心」や「積極的平和破壊主義」への進軍は断固拒否します。

増田善信 (元気象研究所研究室長)

安倍首相は先ず9条を変えようと考えたがそれがむつかしいとして96条を、つぎは解釈を変えて集団的自衛権が行使できるようにと後退している。九条の会の力で断念に追い込もう。

松浦龍夫 (真宗大谷派僧侶)

多くの人たちの命をうばい、本来その人々に資すべき資材を無駄に使い果たす戦争は罪悪だと思います。

松元ヒロ（スタンダップコメディアン）

主権者である私たち国民が戦争はしないと
言っているのです。国は憲法を守って下
さい。

松山幸生（日本キリスト教団牧師）

歴史から学ぶ謙虚さを忘れ、自らの理念
に捉われた歴史観に立つ内閣がアジア諸国
との協調・共生を放棄した政策や戦略によ
りアジア支配へと踏み出したことに、深く
心を痛めています。平和への道を希求する
歩みをこの国が歩みつづけることを祈りつ
つ。

山尾幸久（立命館大学名誉教授）

80 年前とは違うことを自民党の国会議員
に知らせてやらねばなりません。この1年
はまるで白昼夢をみているようです。

山本さとし（シンガー・ソングライター）

だれの心の中にも、平安とやさしさを。
安全で、平らで、和やかな世の中を望みま
す。

山本巨（俳優）

戦後 68 年間、他国民に鉄砲玉を撃って居
ない事を、日本人の誇りとしよう。これか
らも撃つまいぞ!!

山本司（歌人）

ナチスの手口を運用した遣り方で、日本
国憲法の第9条を死文化し、戦争参加をも
くろむ集団的自衛権を断じて認める訳には
行きません。阻止できるまで、反対運動を
つづけましょう。

山本洋（映画プロデューサー）

「イザというときに阻止すれば」…それ
では遅い。「野望を許さぬ」…多数の声を力
に、今からが勝負。

湯川れい子（音楽評論家・作詞家）

どう考えても、集団的自衛権の行使は、
戦争への道です。

横田力（都留文科大学教授）

基地の存在そのものが米戦略を目的とす
るもの。従ってその存在を決めた段階です
で潜在的には集団的自衛権にコミットを
しています。今回の事態は正にこれをヴァ
ーチャル化するものであり、憲法原理に真
っ向から対立するものです。決して許して
はなりません。

吉田正志（東北大学名誉教授）

全世界から戦争をなくすために、まずは
日本が「絶対に戦争をしない国」であり続
けなくてははいけません。そのために「集団
的自衛権」の行使を決して認めてはいけま
せん。

李恢成（小説家）

「日本国民」ではありませんが、在日す
る韓国人として日本の右傾化を心配してお
ります。アジアの平和、世界のピースを心
から念願するかつての「小国民」として。

ワシオ・トシヒコ（美術評論家・詩人）

戦争か、平和か。こんなこともまだ判ら
ない大人たちが、21 世紀の世界に存在す
ることを、どう考えればよいのだろうか。